

## 折に触れ 四字熟語

### NO. 111 『恵風和暢』 けいふう わちょう

< 意味 > 恵みの風が吹き、のどかでなごやかにすること。

< 出典 > おうぎし らんていしゅうじょ  
王羲之「蘭亭集序」

「・・・

是日也天朗氣清恵風和暢 是の日や、天朗らかに気清く恵風は和暢せり

・・・」

語 釈：「恵風」は生物を成長させる恵みの風。「和暢」はのどかでなごやかなこと。また、のどかでなごやかにすること。

一 言：新元号シリーズ その4

「和」の2回目です。「蘭亭集序」はNO. 101でも出典になっていましたが、353年（永和9年）3月3日、王羲之が名士や一族を名勝・蘭亭に招き、総勢42名で曲水の宴を開き、その時に作られた詩27編（蘭亭集）の序文として王羲之が書いたもの（草稿）です。

参照文献：岩波書店「四字熟語辞典」